

日時：平成28年6月2日15:00～

場所：飯田市役所C311～313号会議室

1 委員紹介・部会長選出

部会長：信州大学農学部 上原三知 准教授

2 確認事項

(1) 上位・関連計画における位置づけの整理

長野県リニア活用基本構想<長野県>、リニアバレー構想（骨子）<伊那谷自治体会議>、リニア将来ビジョン<南信州広域連合>、リニア駅周辺整備基本構想<飯田市>など上位・関連計画について事務局から説明があり、それぞれの位置づけを確認した。

(2) リニア駅周辺整備検討会議の経過

これまでの検討経過と平成27年度のまとめについて事務局から説明があり、リニア駅周辺整備検討会議（以下「全体会議」）での経過を確認した。

(3) 環境・景観部会の目的と役割

設置の目的と役割について事務局から説明があり、全体会議から委ねられたこの部会のミッションと主な検討内容を確認した。

3 協議事項

(1) 部会の進め方

平成28年度のこの部会9回の日程・検討内容、全体会議との関係と平成29年度リニア開業までの大まかなスケジュール等について事務局の説明後に、本部会の進め方について協議を行った。

主には、委員から「整備区域6.5ha以外も本部会の検討の対象となるのか」との質問に対し、事務局から「基本的には整備区域内の検討となるが、周辺にもどう波及できるかも検討いただければと考えている」と回答があり、また他の委員から「景観やサイン計画などは整備区域の中だけではなく来訪者が到達するルート全てにおいて検討が必要となる」との意見があった。それらに対し、他の委員から「伊那谷らしさと言う抽象的かつ大きな話があって、それから6.5haの整備区域があって、それから飯田や伊那谷に展開するという主に3つレイヤー（層）がある。伊那谷らしさは皆さんの思いを含めて、アイデア募集の意見の中にもかなりあると思うので、それらをまとめ、その中で実現しなければならないものを整備区域の中にどう落とし込めば良いか議論し、整備区域に落とし込まれた要素はこれからの飯田なり伊那谷にとって重要な要素であるので、それをどうやって周囲に展開していくのか、最後にまたレイヤーを拡げていくという議論の流れではないか。」との発言があり、検討の進め方について部会内で共有ができた。

(2) 意見交換

委員の自己紹介を兼ね、各自の思いなどを意見交換した。主な意見は次のとおり。

- ・リニアの恩恵の果実が伊那谷全体に行き渡らなければならない。大都市の間で埋没せず、伊那谷の個性でどんな役割を果たせるのか、学びから自ら考えることが必要。飯田の豊かな風土へと誘うのが駅周辺の役割であり、その装置としてのあり方を考えたい。
- ・地域産木材を多く利用してもらえるよう考えていきたい。
- ・エネルギーの地産地消は地域の自立につながり、リニア駅は地域のモデルになり得る。
- ・上伊那地域でのサイン看板を統一する民間団体の取り組みは参考にして欲しい。
- ・駅周辺だけでなく、周辺町村や沿道の調整についても検討していければと思う。
- ・自然保護・保全という意味では飯田は環境に対しての取り組みが素晴らしく、豊かな自然環境とともにアピールできればと思う。
- ・東北の復興を見ても、専門家の意見に従うだけ、地域住民の要望を聞くだけでは成功するとは限らない。「誰のために」または「理想と要望のバランス」を考えることが重要。景観や環境は遠回りかもしれないが人が住むにあたっては重要な要素である。